弥生時代

名前

問1　古代における農具の改良について、木製農具の先に鉄の刃先を取り付けるようになった目的と、その結果として生じた変化について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 富山県公立入試 類似）

1. すべての農具を鉄のみで製造することで、木材資源の消費を抑え森林を保護した
2. 灌漑用水を確保するために、大規模な土木工事専用の石造りの道具を開発した
3. 石包丁の使用を継続しつつ、木製農具の強度を補うことで穂首刈りの効率を上げた
4. 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した

問2　弥生時代に作られた吉野ヶ里遺跡のような「環濠集落」が、縄文時代の集落にはほとんど見られない防御的な構造（深い堀や土塁など）を持つようになった背景として、最も適切な理由はどれか。（2026年 大阪府公立入試 類似）

1. 大規模な建築技術が導入されたことで、権力者の権威を象徴するための装飾として堀を作ることが流行したため。
2. 狩猟採集が中心の社会において、森から降りてくる野生動物の侵入を物理的に遮断する必要があったため。
3. 大陸から伝わった稲作によって食料の備蓄が可能になり、土地や水を巡る集落間の争いが始まったため。
4. 巨大な前方後円墳を造営するための土を確保する目的で、居住地の周囲を深く掘り下げる必要があったため。

問3　弥生時代の高床（式）倉庫において、柱と床が接する部分に「ネズミ返し」と呼ばれる板状の部材が取り付けられた理由として、当時の社会背景を踏まえた説明はどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）

1. 定住生活が始まったことで、家畜として飼育し始めた動物が建物内に入り込むのを防ぐ必要があったから。
2. 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。
3. 大陸から新たな建築技術が伝来し、建物の耐震性を高めて大規模な集落の崩壊を防ぐ必要があったから。
4. 集落間の争いが激しくなったため、床下に敵が潜り込んで火を放つことを防ぐ防御壁が必要だったから。

問4　西暦57年から16世紀末までの歴史的な出来事をまとめた年表において、3世紀の項目に「倭の女王が魏に使いを送る」という記述があります。この時、女王卑弥呼が中国の王朝と外交関係を結んだ主な背景や目的として最も適切なものはどれですか。（2019年 茨城県公立入試 類似）

1. 鉄資源を独占するために、朝鮮半島南部の任那（加羅）に日本府を設置する許可を得るため
2. 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため
3. 中国で確立されていた律令制度を学び、天皇を中心とした中央集権国家をいち早く形成するため
4. 仏教を正式な国教として導入するために、大陸から僧侶を招き、寺院建設の支援を受けるため

問5　紀元1世紀、倭の奴国の王が大陸へ使節を送り、後漢の皇帝から授けられたとされる金印について、その事実が記述されている中国の歴史書として正しいものはどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）

1. 「隋書」倭国伝
2. 「魏志」倭人伝
3. 「宋書」倭国伝
4. 「後漢書」東夷伝

問6　1世紀、3世紀、5世紀の倭（日本）の勢力が行った中国への朝貢について述べた文として、正しいものはどれか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）

1. 3世紀、邪馬台国の卑弥呼が後漢へ使いを送り、「親魏倭王」の称号を授けられた。
2. 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。
3. 5世紀、奴国の王が南朝の宋へ使いを送り、金印を授けられた。
4. 5世紀、倭の五王が魏へ使いを送り、朝鮮半島における軍事的な立場を認めさせようとした。

問7　弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）

1. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた
2. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた
3. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた
4. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた

問8　紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）

1. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。
2. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。
3. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。
4. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。

問9　佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、周囲を深い堀や土塁で囲んだ大規模な環濠集落である。このような集落が造られた当時の社会背景を説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 佐賀県公立入試 類似）

1. 氷河期が終わり海面の上昇が激しくなったため、集落が水没しないよう高い防波堤を築く必要があった。
2. 大陸から仏教が伝来し、その寺院を保護するために宗教的な儀礼として堀を巡らせる必要があった。
3. 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。
4. ナウマン象などの大型の獲物を効率よく捕獲するための罠として、村の周囲に深い溝を掘る必要があった。

問10　1世紀半ば、倭の奴国の王が、危険を冒してまで当時の中国の王朝であった漢（後漢）に使節を送り、皇帝から金印を授かった政治的な背景・目的として最も適切なものはどれですか。（2025年 愛媛県公立入試 類似）

1. 中国で起きていた大規模な農民反乱を鎮圧するために、倭の軍事力を提供して同盟関係を築くため
2. 中国で当時流行していた仏教を正式に日本へ導入し、宗教的な力によって国内の混乱を鎮めるため
3. 中国で発明されたばかりの青銅器や鉄器の製造技術を独占し、列島全体を武力で統一するため
4. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらい、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため

問11　佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表される弥生時代の文化や社会状況について述べた文として、背景や当時の国際関係を含めて説明したものとして正しいものを選択してください。（2015年 佐賀県公立入試 類似）

1. 稲作が普及して定住が進んだが、大陸との交流は途絶えており、日本独自の国風文化が形成された。
2. 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。
3. 巨大な前方後円墳が各地に築かれ、ヤマト政権が近畿地方を中心に統一国家としての基盤を固めた。
4. 百済から仏教が伝来し、聖徳太子が大陸の進んだ制度を取り入れるために十七条の憲法を制定した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 土を深く耕すことを可能にして農業生産力を高めるため、収穫量が増大した	鉄の刃先を装着することで、従来の木製のみの農具では難しかった硬い土壌を深く掘り起こす（深耕）ことが可能になりました。これにより土壌の養分が有効に活用され、農業生産力が大幅に向上しました。石包丁から鉄鎌への変化なども含め、鉄の普及は収穫量の増大と社会の余剰生産物の蓄積に直結しました。
問2	答え 3 大陸から伝わった稲作によって食料の備蓄が可能になり、土地や水を巡る集落間の争いが始まったため。	弥生時代に稲作が普及すると、余剰生産物の蓄えや、稲作に欠かせない土地・水を巡って集落同士の対立が生じるようになりました。このような「戦争」の発生に対応するため、集落の周囲に深い堀（環濠）を掘り、外敵の侵入を防ぐ防御的な機能を持つ集落が発達しました。
問3	答え 2 稲作の開始によって収穫した食料を蓄えるようになったため、その貯蔵分を害獣から保護する必要があったから。	弥生時代の大きな特徴は、本格的な稲作の開始により食料の「貯蔵」が可能になったことです。蓄えられた米は人々の命をつなぐ重要な資源であり、これをネズミなどの害獣に食い荒らされることは、集落の存続に関わる重大な問題でした。そのため、物理的に侵入を遮断する「ネズミ返し」という構造が必要とされました。このような食料の蓄積は、後の貧富の差や身分の違い、集落同士の争いにもつながっていきます。
問4	答え 2 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため	当時の倭（日本）は多くの小国が分立し、争いが続いていた時期でした。邪馬台国の女王である卑弥呼は、当時の中央アジアから東アジアにかけて強大な勢力を持っていた魏の皇帝に朝貢し、自らを王として承認（冊封）してもらうことで、その権威を背景に国内の連合体制を強化しようと考えました。これは、中国の皇帝を中心とした国際秩序を利用した外交政策の一環です。
問5	答え 4 「後漢書」東夷伝	紀元57年に倭の奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かったという出来事は、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。3世紀の邪馬台国や卑弥呼について記された『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）と混同しやすいため、時代背景と歴史書の対応を正確に理解しておく必要があります。
問6	答え 2 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。	1世紀には、九州の奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かりました。3世紀に魏へ使いを送ったのは邪馬台国の卑弥呼であり、5世紀に南朝の宋へ使いを送ったのは倭の五王です。それぞれの時代における「倭の勢力」と「中国の王朝」の組み合わせを正確に把握する必要があります。
問7	答え 1 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問8	答え 4 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使者を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問9	答え 3 稲作によって収穫物の蓄えや土地・水をめぐる争いが集落間で発生したため、外敵から守る必要があった。	弥生時代に稲作が始まると、余剰生産物の貯蔵や、稲作に不可欠な水田・用水をめぐって集落間で利害対立が生じ、戦争が起こるようになりました。吉野ヶ里遺跡に見られる環濠や土塁、物見櫓は、敵の侵入を防ぎ、村を守るための防御施設として機能していました。
問10	答え 4 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらい、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立していました。奴国の王は、強大な力を持つ中国の王朝に使節を送り、皇帝に貢ぎ物を届けることで「王」としての承認（冊封）を受けました。授けられた金印は、中国皇帝の威光を背景に自らの支配の正当性を周囲に示すための重要な道具として機能しました。なお、仏教の伝来は6世紀、武力による統一の動きが加速するのは3世紀以降のことです。
問11	答え 2 有柄細形銅剣などの青銅器が大陸から伝わり、女王卑弥呼が魏へ使者を送るなど大陸の王朝との交流を通じて自らの権威を高めた。	吉野ヶ里遺跡は、大規模な環濠集落や有柄細形銅剣などの出土品から、弥生時代の社会構造や大陸とのつながりを示す重要な遺跡です。この時代、稲作の普及により余剰生産物が生まれ、貧富の差や土地を巡る争いが発生しました。その中で誕生した邪馬台国の卑弥呼は、中国の魏と外交を行うことで、大陸の進んだ文化や宝物、そして皇帝からの公認という「権威」を獲得し、国内の小国をまとめようとしました。古墳の造営や仏教の伝来は後の時代の出来事です。